

第二十七回更埴地区短詩型文学祭入賞作品

更埴公民館運営協議会（坂城町と千曲市で構成）主催の第二十七回更埴地区短詩型文学祭表彰式が12月17日（土）に坂城町中心市街地コミュニティセンターで開催されました。
佳作以上に選ばれた坂城町の作品を紹介します。敬称は略させていた
だきます。

一般の部

「短歌の部」

佳作

「終わったらトマトの苗を植えるわね」
逃れ来し娘にウクライナの母

横田 徳子（網 掛）

「俳句の部」

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

鳩の声電波不良の平家谷

永井 浩（大 宮）

◆更埴公民館運営協議会長賞

その時に鐘つく寺や原爆忌

小西 正枝（町横尾）

◆佳作

桃出荷箱に貼られた「黍」の文字

中島 照代（中之条）

「川柳の部」

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

低辺を生きて身に付く思いやり

小宮山洋子（中之条）

「現代詩の部」

◆更埴公民館運営協議会長賞

すずめ

松沢 瑞枝（込 山）

昨年一年間なぜか御無沙汰だった
ふと気がつくと 寢室の外の軒下で
か細い小さな声がチチチチと
そんなに鳴き続けて大丈夫と
思うほど

お腹が空いたよ

お父ちゃんお母ちゃん

その声は数日後には

にぎやかなチユチユチユとなり

休む間もない親鳥たちの姿は見えないが

天敵にどうか見つかりませんように

チユンチユンチユンと元気な鳴き声

ブルブルと羽ばたきをくりかえし

ガサゴソと動きまわり あるとき

突然シンとしたもの私の部屋になる

ウクライナでも

小鳥たちの子育ては続いているだろうか



◆佳作

カマキリ

石関みち子（込 山）

雲ひとつない気持ちのいい秋日和
洗濯物を広げていると
すぐ目の前にカマキリ一匹
鋭い鎌状の捕獲肢

これで虫などを捕らえるのだろう

三角の小さな頭 触角は糸状に

長く二本

腹部は大きくふくらみ

四本の肢はすてきに長い

カマキリというより 螭螂という貫禄

春の頃か白い壁に取りついていた

ちっちゃな姿はみどりの妖精のよう

だったか

螭螂の斧とは 強敵に反抗する

はかない抵抗の例えというが

しばし勇姿に見とれていたが

いつの間にか何処へ消えてしまったのだ

何か話してみたかったのだ

あの眼が今の世をどう感じているのかを

やんちゃばうず

小宮山敬子（網 掛）

むこうの山々が

だんだんと眠りについて

空の神様が

魔法の杖をひと振りすると

灰色雲の親分が

雪の子分達を送り込む

やんちゃばうずが

あとからあとから舞い降りてきて

鬼ごっこを始める
「みーつけた」

「つーかまえた」

さっきまでおしやべりしていた

自動販売機は

目をぱちぱちさせて

黙り込む

家の前に止まった青い自動車も

ぱーっと突っ立った電柱も

あつという間につかまつて

そうして

ずんずん

ずんずん

世界はやんちゃばうず達の樂園に

変わっていく



小学生の部

「俳句の部」

◆佳作

海開きつめたいなみが
おしよせる

坂城小学校五年 河内乃ノ葉

キャンプの日

火の神様があとずれる

坂城小学校五年 高橋 力也

「川柳の部」

◆奨励賞

能登の宿友の笑顔で光る星

南条小学校六年 尾台 結菜

空みあげ夜うめつくす星の海

村上小学校五年 藤井 美宇

◆佳作

ささえあうこころゆたかな
にちようへ

坂城小学校四年 萩原 有斗

二年ぶり祖母の料理で
ほっぺもえがお

南条小学校六年 吾妻 啓志

協力して助け合っているいいクラス

坂城小学校四年 丸山 空真



「現代詩の部」

◆奨励賞

けんか

南条小学校四年 山崎 白琥

やすみになるとけんかがはじまる
ぼくと兄のけんかがはじまる
すんごいけんかがはじまる
ぼくがなんにもしてないのに
兄がいらいついてたら人をまきこむ
やすみだけんかをやめてほしい

いねのダンス

南条小学校四年 大塚 柚

家の近くに田んぼがある
いねがそだってきて
かぜにゆられて
おどつてる
きれいなダンス
うつくしい
早くお米になってほしいな

中高生の部

「短歌の部」

◆佳作

とうもろこしひとつぶひとつぶ
ていねいに食べる妹
すごくかわいい

坂城中学校二年 篠原 琉杏



「俳句の部」

◆奨励賞

夏の空ベテルギウスが見えた夜

坂城中学校二年 瀧澤 ラル

「川柳の部」

◆佳作

ありがとう

努力で褪せたユニフォーム

坂城中学校三年 小林 名乃

「現代詩の部」

◆佳作

人生は物語

坂城中学校二年 小熊 千奈

私達の人生は
いくつかのストーリーが
つながってできている
「起」で物語が始まり
「承」でいろいろな人と出会い
「転」で人生を変える決断をして
そして
「結」で物語は終わりをむかえる
最後まで物語を書ける人もいて
途中で急に書き終わる人もいる
でもね
どこで物語が終わるのか
誰にも分らない
だから面白いんだけどね
不器用でもいい
下手くそでもいいんだよ
最後に最も必要になるモノは
「自分らしさ」
なんだから

500字リレートーク

自然豊かな自在山

宮原 澄子

我が家から見える自在山は三角の形です。主人の母は「坂城富士だよ」と言っていたので「そんな名前もあるんだ」と長年私は思っていました。ある時、母から「坂城富士は私が付けたんだよ!」という言葉に二人で笑ってしまいました。

四季を通して、春は山桜で淡いピンク色、夏は太陽の光を浴びて生き生きとした緑色、秋は茶色の落ち着いた紅葉、冬は白く雪化粧といろんな装いです。

自在山の自然の美しさは、人生の辛さを感じてもポジティブ思考に整えてくれるので心身ともに健康に過ごせています。感謝したいと思います。

母はいつも「一度は自在山に登りたい」と言っていました。自宅での介護が難しくなり、今は施設で過ごしています。

母と手をつないで一緒に自在山に登り、頂上から我が家を見ている姿を思い描く毎日です。

次は、高野美智子さんです。



我が家から見える自在山「坂城富士!」